

地区別基礎資料

農村地域防災減災事業 京田川地区

目 次

1. 事業概要	1
2. 事業の進捗状況	7
3. 関連事業の進捗状況	8
4. 農業情勢、農村の状況その他社会経済情勢の変化	8
5. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	9
6. 環境等の調和への配慮	10
7. 事業コスト縮減等の可能性（取り組み状況）	10
8. 地元（受益者、地方公共団体等）の意向	10
9. その他	10

1. 事業概要

(1) 地域の概要

本地区が存する酒田市、鶴岡市及び東田川郡三川町は、山形県の北西部に位置し、北に鳥海山、東に出羽山脈、南に朝日山地、西に日本海に面した山と海に囲まれた広大な庄内平野が広がる地域となっている。

「京田川地区」は、県を縦断する最上川下流部の支流である京田川及び藤島川流域の低平地帯に位置している。



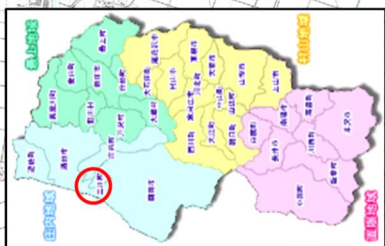
(2) 事業の目的

本地区は近年、豪雨時に排水本線である京田川及び藤島川の河川水位の上昇が頻発するようになり、また地区内においても時間雨量の増加に伴い流出量が増加傾向にあることから、定水位帯の本地区においては、河川水位上昇に伴う排水不能時に、上流域で湛水した排水が農道等を越流し、次々と水量を増しながら下流域へと流れ込むことで下流域集落への甚大な浸水被害をもたらす危険性があるため、農地、公共施設、家屋等への浸水被害を未然に防止するものである。

(3) 事業の内容

- ①事業主体 : 山形県
- ②地区名 : 京田川
- ③関係市町村 : 酒田市、鶴岡市、東田川郡三川町
- ④事業費 : 3,470 百万円（令和6年度時点）
- ⑤工事期間 : 平成26年度～令和8年度
- ⑥受益面積 : 1,757.1ha
- ⑦受益戸数 : 1,716 戸
- ⑧主要工事 : 排水機 5 施設、導水路 3,028.5m
- ⑨関連事業 : なし

農村地域防災減災事業



京田川地区の実施状況

[荒田排水機の整備状況]



被災時（平成 25 年度）



排水機（令和 4 年度完成）
導水路（令和 5 年度一部完成）

[二丁堀排水機の整備状況]



被災時（平成 25 年度）



排水機（令和 4 年度完成）

[二丁排水機の整備状況]



被災時（平成 25 年度）



排水機（令和 5 年度完成）

[長沼排水機の整備状況]



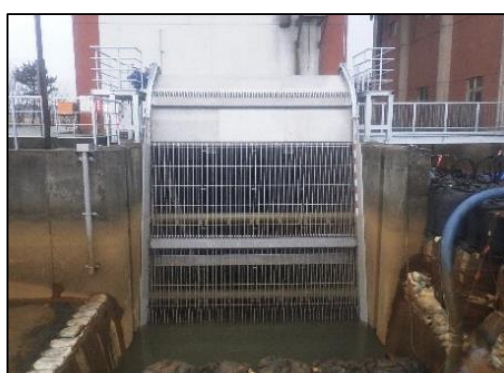
被災時（平成 25 年度）



排水機（令和 5 ～ 6 年度整備）
導水路（令和 6 ～ 8 年度整備予定）



[袖浦排水機の整備状況]



整備前（平成 25 年度）
スクリーンのみ

除塵機新設（令和 4 年度完成）

【参考：令和6年7月豪雨】

本地区の計画基準降雨は1/10 確率日雨量であるが、令和6年7月25日に発生した豪雨は、本地区の近傍にある酒田測候所によると、7月24日から26日までにかけての3日間の降水量が300mmを超えた。また、26日4時までの24時間降水量が289.0mmとなり、観測史上1位を更新するとともに、平年7月の月降水量（218.7mm）を上回る記録的な大雨となっており、想定外の異常な降雨であったため、地区内での一時的な湛水は避けられなかった。

地元ではこれを教訓に、豪雨発生時における排水機の操作管理について、気象・水象状況を収集、把握するとともに、遠隔水位観測設備の導入を検討するなど、引き続き洪水への対応を強化していくこととしている。

(3) 事業概要

1) 事業計画概要

ア. 関係市町村 山形県酒田市、鶴岡市、東田川郡三川町

イ. 受益面積

区分	現計画	再評価時	増減
受益面積	1,757.1ha (水田 1,757.1ha)	1,757.1ha (水田 1,757.1ha)	±0.0ha

ウ. 主要工事計画

区 分	現計画	再評価時	増減	備考
排水機	5 施設	5 施設	± 0 施設	
導水路	3.0km	3.0km	± 0 km	

エ. 総事業費

区 分	現計画	再評価時	増減
総事業費	3,470 百万円	3,470 百万円	± 0 百万円

オ. 工期

区 分	現計画	再評価時	備 考
工期	H26～R 8	H26～R 8	

カ. 受益者数

区 分	現計画	再評価時	増減
受益者数	1,716 人	1,716 人	± 0 人

キ. 地元負担割合

国	県	市	農家
55%	29%	14%	2%

2. 事業の進捗状況

(1) 概要

令和 5 年度まで進捗率は 87.2%である。

排水機は 5 施設中 4 施設において、令和 5 年度までに本体工事が完成し、供用を開始している。

導水路工は全延長 3.0km 中 0.6km が完成している。

(2) 予算執行状況

総事業費	令和5年度 まで	令和5年度 までの進捗率	令和6年度	令和7年度 以降
3,470 百万円	3,025 百万円	87.2%	78 百万円	367 百万円

(3) 工事の進捗状況

区 分	主要工事計画			備考
	全体事業量	令和5年度まで	進捗率	
排水機	5 施設	4 施設	99.8%	進捗率は工種別予算ベース (2,587/2,592 百万円)
導水路	3.0km	0.6km	44.3%	進捗率は工種別予算ベース (293/661 百万円)

(4) 事業実施上の課題や問題点、今後の見通し

本地区は、平成26年度に事業採択されたものの、河川協議に伴う吐水槽の耐震化や地盤改良工の追加、また排水機の施工にあたり、隣接関係者との協議により工程調整が必要となったこと、導水路の施工にあたっては土質が悪く仮設工の変更が必要になるなどの要因により、工期の延伸が必要となったため、計画変更を行い対応している。

現計画との対比では工期の変更は生じておらず、現在は令和8年度完了に向けて事業を進めている状況である。

3. 関連事業の進捗状況

なし。

4. 農業情勢、農村の状況その他社会経済情勢の変化

(1) 国、県の政策や計画の転換等

近年の気候変動の影響により気象災害が激甚化・頻発化していることから、「国土強靱化基本計画」により防災・減災、国土強靱化の取組みが推進されている。

(2) 財政状況の変化

「防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策」により、農業水利施設の整備推進のため財政上の措置がなされている。

(3) 事業実施地域の周辺環境の変化

近年、異常気象による豪雨等の自然災害が頻発し、農地、農業用施設や家屋への浸水被害が発生している。

(4) 地元の協力体制の変化

施設管理者である酒田市、鶴岡市、三川町の維持管理体制に変化はない。

5. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

[基準年 現計画：令和5年 再評価時：令和6年]

(1) 受益面積

受益面積は1,757.1haであり、現計画から変動は生じていない。

(2) 主要工事計画

主要工事計画の変更はない。

区 分	主要工事計画			備考
	現計画	再評価時	増減	
排水機	5 施設	5 施設	± 0 施設	
導水路	3.0km	3.0km	± 0 km	

(3) 事業費

令和6年度時点における総事業費は3,470百万円で、現計画から増減は生じていない。

(4) 費用対効果分析

本地区は、被害軽減効果の算定基礎となる地域農業振興の基本方針などの諸情勢の変化を踏まえ、令和5年度に計画変更を行っており、現時点で費用対効果分析の基礎となる要因の変化は生じていない。

(単位：千円)

区 分	現計画	再評価
総費用（現在価値化）	11,102,415	13,224,972
当該事業による費用	3,829,451	4,447,409
その他費用（関連事業費＋資産価額＋再整備費）	7,272,964	8,777,563
評価期間（当該事業の工事期間＋40年）	53年	53年
総便益額（現在価値化）	21,104,232	22,581,207
総費用総便益比	1.90	1.70

(5) 市町村等が策定する農業振興計画等との整合

酒田市、鶴岡市、三川町の田園環境整備マスタープラン整合が図られている。

6. 環境等の調和への配慮

本地域は、環境省の自然環境保全基礎調査で選定された貴重な動植物は確認されていないが、水辺空間として良好な自然環境が維持されている。なお、工事実施時における降雨等による濁水の下流流出防止対策や、周辺住民への環境配慮として、騒音及び振動の対策を講じる等、環境等への配慮を図る計画である。

7. 事業コスト縮減等の可能性（取り組み状況）

工法選定並びに設計にあたり、地形地質等の現場条件に適合する材料・工法の比較設計を行い、最も合理的かつ経済性に優れたものを採用しており、今後実施予定の工事においても積極的にコスト縮減に努めることとする。

8. 地元（受益者、地方公共団体等）の意向

近年のゲリラ豪雨の影響を受け、排水先河川である京田川や藤島川の河川水位の上昇が頻発するようになり、自然排水に支障をきたし、湛水被害が発生するとともに、上流域で越流した排水は次々と水量を増しながら下流域に流れ込むことで、下流域集落への甚大な浸水被害をもたらす危険性があるため、地元関係者並びに関係市町は早期の事業完了を求めている。

9. その他

なし。